



7月の青空の下、庭に

ひまわりの花が咲いています



豊川市パート2

太田久美子さんの求婚には参りましたが、その気が私にはありませんでしたので、丁重にお断りしましたが、なかなか納得してもらえませんでした。お酒も入っているので強気で押し来るのでほとほと参りましたが、今女性ということでは稲垣さんの他に私は興味がないので「今は誰とも結婚とかお付き合いするとかは考えられないので、申し訳ないのですが貴女の申し出をお受けすることは出来ません」とはつきり断りました。太田さんは小学校の先生と言う場所があるわけですからそこで生きていけます。そのうちいい方が見つかるでしょうと冷たく思っている私でした。太田久

美子さんは悲しそうな顔をして帰って行きました。仕方ありません、私には今は生活を立て直す大事な仕事がありますので、それと愛情が消えていることが最大の私の気持ちが冷めている原因でした。

翌日稲垣さんと会っていました。「豊川に一度行ってみたいのだけど、案内してくれるか」彼女は「いいですよ」と簡単に答えてくれました。一度行ってみなければ結論は出ないと思っていました。「行くなら早い方がいいなあ君都合は？」「私もいつでもいいですよ。社長さんの都合に合わせます」「その社長さんはもう社長ではないのでなんとかならない」「なんとお呼びすればいいですか」「籠谷さんでいいよ」「何か恥ずかしいです

すね」「なんでそれでいいよ」「わかりました今後そうお呼びします」どうでもいいことだと私は思いつながら恥ずかしそうにして稲垣さんを見ていて改めて純情な人だと感じていました。

車で行くことにしました。私はブルーバードに乗っていましたのでそれで二人で出かけました。稲垣さんにとっては故郷に行くのですが、私は初めてです。稲垣さんの実家にお寄りするということになっていますので少し緊張気味で名神高速道路を突っ走りました。挨拶のお土産も買ってお父さんお母さんとの対面も緊張します。まだ二人は結婚すると決めたわけではないのでなんと挨拶すればいいか、いろいろ考えながらの旅です。

豊川市は名古屋を過ぎて40分ほどのところで、大阪から3時間あれば十分な所です。私は運転しながら途中で休憩場所を岐阜の養老パークキングでもと考えていました。朝8時半に出発して一路豊川に向かいました。助手席には稲垣さんが座っています。私はこの娘が妻ならなあと考えていました。彼女とは十数回会って話をしていますし、私の家に遊びに来てお袋の料理も食べてもらっている仲ですが一度も浮わつた話はしたことがありませんでした。

一緒に飲みに行つたこともありませんでしたがそれ以上のことを私は要求したこともありません。私としては珍しいことですが、なぜかそれ以上はと、歳も彼女は22歳、私はもう37歳になっていましたので15歳の歳の差があり、また彼女は初婚、私は再婚バツイチ。そんなことが、私を臆病にしていたのかもしれない。でも他の女人となら少し気に入れば

ホテルに行ったりしたくせに彼女だけは手が出せませんでした。私はいつか彼女に結婚を申し込もうと思っていました。

その時が今日ではないか？思い切つて私の思いを彼女にぶつけてみるのが今日ではないかと運転しながら、不謹慎かもしれませんが、真剣に考えていました。そんなことを考えているうちにやがて車は養老パークキングにすべり込んでいきました。

「ここで少し休んで行こう」「はい」二人は車を降りて喫茶室に向かいました。日曜日でしたので、家族連れで混んでいました。角のテーブルに座ることができました。そこから外の岐阜の山々が見えてなかなかロマンチックな喫茶室です。私はコーヒーを頼み彼女は紅茶を頼みました。飲み物が来る前に「今日はここで大事な話をしようと思つているが

大丈夫？」と私は言っていました。「はい」と少しびっくりした様子で飲物が来るのを待っている彼女を見て私は勇気を出して話し始めました。「僕は以前から君のことが好きでいや愛しているのだから結婚してほしいと思ってるのだけど、僕はバツイチなのと年齢が離れているので気になるかもしれないが、私の愛を受け入れてくれないだろうか」「え！」と彼女が言ったきり黙ってしまつて、その時飲物が来たので話は中断し、私もまずはコーヒーを一口飲んで心を落ち着かせ「突然でびっくりしたと思うが前から考えていたことです。新しい仕事が貴女の故郷の豊川ということも何かの縁かも、そこで貴女と新しい出発ができれば最高だと勝手に思っていたのですが、貴女の率直な気持ちや聞かせてくれないか」暫く俯いていた彼女がすきつと私の方に目を向けて「実は私も社長さんいえ籠谷さんのことが好きでした。とても頼りがいのある方でお母さんにも紹介していただいて私のことを大事に考え

て下さっていると感じていました。でも私は男性とお付き合いするのが初めてで、どのようにご返事していいのかわかりません。少しお時間を下さいませ」と言つて来ました。私は「それはそうだね、いきなりのポロポーズでは返事のしようもないね、しかしこうしたことは常に突然のことだからよく考えてくれますか、そうだと豊川に着くまで2時間ほど有るのでその間に考えて下さい」都合の良いことを言つて彼女を困らせたかなあと思いましたが、その間に決まれば、今日お会いするご両親や、兄弟たちに挨拶のしようが変わってくるし、二人が結婚することの報告なら、仕事の件と一石二鳥だと厚かましいことを私は考えていました。彼女はどのような結論を出してくれるのか、私の人生の伴侶が再び決まるのか、次回のお楽しみ……

籠谷 弘



歌声喫茶 7月・8月の予定

「西院」(第2、4木曜日)

7月11日、25日

8月8日、22日

楽々亭第44回 7月の予定

7月16日(火)

西京区役所洛西支所第三会議室

午後1時30分～3時30分



ともしび通信

発行元：NPO 法人没イチの会・京都

住所：京都市西京区大枝北沓掛町一丁目5番地2-406

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。